

地域経済の

好循環をリードする

新たな時代にふさわしい

商工会議所へ

2022年11月1日、当所役員改選に伴い、これまで副会

頭を26年間務めた藤崎の藤崎三郎助代表取締役会長兼社

長が、第25代会頭に就任しました。

本特集では、時代の流れが大きな変革期を迎える中で、会
員事業所の皆さんが大きく飛翔していただくために、新た
なりリーダーが考える、今後の仙台商工会議所の運営に関す
る方針や目指すべき方向性などについてお伝えします。

仙台商工会議所 会頭

ふじさき

さぶろうすけ

藤崎 三郎助 氏

(株)藤崎 代表取締役会長兼社長

地元仙台はもとより

宮城・東北の

発展に向けてまい進

進行 第25代仙台商工会議所会頭に就任された、今の率直なお気持ちをお聞かせください。

藤崎 仙台商工会議所会員を代表する議員総会での決定を極めて重く受け止めており、当所名誉会頭である鎌田宏前会頭が、東日本大震災からの復興をはじめ、12年にわたってさまざまな役割を担ってこられた道筋を引き継ぐのだということと考えると、大変、身の引き締まる思いです。このことを胸に刻み、地域総合経済団体として、9500を超える会員の皆さんや地域の多様なニーズに応えていきたいと考えています。

特に、資源・エネルギー価格の高騰や円安の急伸など、現在のような先行きが見通しにくい経済情勢の下で、企業を育て、地域を元気にしていくという商工会議所の役割は、ますます重要となってきています。その範囲は地元仙台にとどまらず、宮城・東北の発展をけん引するという重要な役割を担っています。お引き受けした以上は、商工会議所の全機能・全組織を挙げて事業運営に当たり、皆さんの期待に応えられるよう努めていきます。

進行 続いて、今後の商工会議所の運営方針について伺います。目指すべき方向性をどのようにお考えですか。

藤崎 2022年を振り返りますと、宮城県が県制150周年の大きな節目を迎え、「東北絆まつり」や「仙台七夕まつり」、「仙台青葉まつり」などの各地での祭りやイベントが、3年ぶりに従来に近い形で開催することができました。さらに、仙台空港では、年末年始におけるタイ国際航空のチャーター便(仙台―バンコク線)の運航や、2023年1月からのエバー航空の定期便(仙台―台北線)再開が発表され、コロナ禍で止まっていた国際線が動きだすなど、久しぶりに明るい話題が多かったように思います。

しかし一方で、今の社会情勢は非常に混沌こん沌としています。とりわけ、人口減少と少子高齢化が加速的に進む東北地域では、持続可能な地域社会をどのようにして構築していくかが大きな課題です。一朝一夕に解決できる方法はありませんので、それぞれに即した形での対応をリードするのが、われわれの役割ではないかと考えています。

また当所では、2022年度から2026年度までの5年間の事業の指針となる「第5期中期ビジョン」を策定しています。本ビジョンでは、「地域から世界へ。いま以上に多くの人々が訪れ、暮らし、力強く飛翔する都市『仙台』づくりへの挑戦」をテーマに掲げ、「コロナ禍からの地域経済の再生」に全力で取り組みながら、「多様な人材が集いチャレンジし輝く街」「宮



城・東北をけん引する選ばれる都市」の実現を目指しています。その実現のためにまい進していくというのが、当所が目指すべき方向性であると捉えています。

伴走型のサポートで企業の活力を向上

進行 今のお話にありました中期ビジョンには、「企業活力・生産性向上」「地域力・都市力向上」「組織力・発信力向上」の3つの柱がありますので、ここからは各項目に基づいてお話をお伺いします。はじめに、「企業活力・生産性向上」に関するお考えをお聞かせいただけますか。

藤崎 社会情勢に対応する形で、自己変革をしながら企業活動を行ってこられた中小企業の皆さんを、商工会議所は強力にバックアップしてきました。当所での2021年度の相談対応件数は4655件で、そのうち約2割を占めたのが販路拡大に関するものでした。引き続き、販路の回復拡大などに活用できる「小規模事業者持続化補助金」や、中小企業等の自己変革への後押しとなる「事業再構築補助金」をはじめとした、各種補助金の活用による前向きな投資のための事業計画の策定などを、伴走型でサポートしていきたいと考えています。

また、後継者の問題や少子化に伴う労働力の減少も切実な問題として捉えています。当所では、2018年4月に「事

うな活動を応援していきたいと考えています。

ウィズコロナ時代の観光を見つめ直す

進行 今後、国内外からの観光需要も、回復に向けて大きく期待されていますが、「観光・インバウンド強化」に関するお考えをお聞かせください。

藤崎 2019年度の訪日外国人は過去最多の3188万2000人に上りました。数字を見て考えたことは、この中に、東北を訪れた方々がどれほどいたのかということ。少なくとも仙台の場合、私は訪日客が大挙して訪れたというイメージはありませんし、百貨店においても免税の手続きは決定的に多いとは言えません。このことから、インバウンドを呼び込み、地元経済が潤うために今後、何をすべきなのかを、もう一度、洗い出す必要があると思っています。

業承継センター」という専門部署を設けて、企業ごとの実情に応じた事業承継の進め方についてアドバイスをしてきました。さらに2022年12月には、仙台市、日本政策金融公庫仙台支店、仙台市産業振興事業団と「事業承継支援に関する覚書」を締結しています。今後も、地域中小企業の円滑な事業承継を、ケースに応じてきめ細かく、強力で支援していきます。それと同時に、地域に新たな価値を生み出す創業者の支援についても、事業計画書の策定や資金調達などの一貫したサポートを通じて、着実な創業につなげられるように、地域一丸となって取り組んでいきます。



2022年12月5日に行われた「事業承継支援に関する覚書」の締結式の様子。市内事業者の事業承継課題の解決に向けて、さらなる支援体制の強化につなげていく(写真左から日本政策金融公庫・兵藤匡俊仙台支店長、仙台市・高橋新悦副市長、当所・神部光崇副会頭、仙台市産業振興事業団・遠藤和夫理事長)。

また、グローバルゲートウェイとしての仙台空港の機能を東北全体で最大限に共有するためにも、東北各県との連携強化と国際線全路線の早期再開が必要です。国内における厳しい地域間競争を勝ち抜いていくためにも、東北ならではの魅力を訴求していきます。

進行 仙台には国内外に誇れる伝統文化「仙台七夕まつり」がありますが、この継承・発展については、どのようにお考えでしょうか。

藤崎 「仙台七夕まつり」は、2020年の休止、2021年の規模縮小を経て、2022年は例年に近い形で開催でき、県民・市民の皆さんの期待に応えることができました。その裏には、商店街の理事長や役員、各個店の皆さんのご協力があつたことを忘れてはなりません。日本を代表する祭りであるという自負と誇りを持ちつつ、黙っていてもお客さまが来るだろうということではなく、インバウンドも含めた地元側の受け入れ態勢と、将

それから、新型コロナウイルスの感染拡大以降、企業の経済活動におけるデジタル化やDX(デジタルトランスフォーメーション)が注目されています。しかし、実際はDXという言葉だけが独り歩きをしているような側面もあり、具体的に何かから手をつけていけば良いのか、捉えにくいところがあるのではないかと考えています。ですので、商工会議所がインシアチブを取り、専門家と連携しながら、企業の課題解決に見合ったデジタルの活用をアドバイスするなど、時代の変化を意識した企業の変革をサポートします。

地下鉄沿線地域を軸に都市力を底上げ

進行 続いて、「地域力・都市力向上」のために、コロナウイルスと共生しながらどのように街の魅力を発信し、にぎわいを創出しようとお考えでしょうか。

藤崎 100万都市である仙台市は、東北の拠点都市として、優れた空港や港湾、高速道路、新幹線などの交通インフラを有していますので、ハブとしてのさらなる役割が期待されています。それを拡大、強化していくことができれば、その受け皿となる街そのものも、さらに活性化できるのではないかと思います。

私は藤崎という百貨店を受け継ぎ、経営していますが、大学卒業後に東京で就職し、仙台に帰ってきたのが40年前です。来に向けて持続可能な「仙台七夕まつり」のあり方というものを再度、考える必要があると思っています。



2022年の仙台七夕まつり期間中は、天候と曜日繰りに恵まれたこともあって、3日間で225万人が訪れた(クリスマスロード商店街、2022年8月7日撮影)。

「自己変革」を合言葉に課題解決に取り組む

進行 今後も地域総合経済団体としての事業の実施が重要となってくると思います。次に、「組織力・発信力向上」の面における役割についてのお考えをお聞かせください。

藤崎 商工会議所ならではの最大の特色は、横のつながり、ネットワークにあります。全国515商工会議所の強靱なネットワークの下、日本全体の企業数の

た。以来、バブル景気とその崩壊、リーマンショックなどがあり、東日本大震災も経験しました。今後、何が起るのかは予測が付きませんが、そこから多くの経験と学びを得ることができましたので、前向きなマインドで今後のにぎわい創出のためにどのような取り組みを行っていくのか、皆さんとともに考えていきたいと思っています。

街の話題に目を向けると、東北学院大学の五橋キャンパスが2023年4月に開校します。これを機に若者たちを街中に誘導する仕掛けをしっかりとつくり、同キャンパスに集う1万人以上の若い学生を中心部に呼び込むことができるでしょう。また、青葉山周辺エリアでは、2024年度の本格稼働に向けて、東北大学青葉山キャンパスに次世代放射光施設「ナノテラス」の整備が進められており、医療や創薬、食品、建設、農林水産分野に至るまで、幅広い分野での活用が期待されています。さらに、この二つの大学は、地下鉄南北線・東西線の沿線にあります。加えて、東西線の東のターミナル駅には、周辺環境の発展が著しい荒井駅があります。沿線地域のさらなる開発を推進し、地下鉄の東西軸と南北軸を連携させることで市内の回遊性も高まるでしょう。新たなにぎわいの創出も期待できます。当所としても、各商店街等と連携しながら、独自性あふれる取り組みを面的に拡大することで相乗効果が生まれるよ

約3分の1となる123万の会員を擁し、全国各地で中小企業支援や地域振興活動を行っている経済団体は商工会議所だけではないでしょうか。こうしたネットワークを最大限活用しながら、宮城・東北のけん引役として、行政をはじめとした各機関はもちろん、各地の商工会議所と協力しながら、より良い地域の創造に向けて取り組みを進めていきます。

進行 それでは最後に、2023年のキーワードをお願いします。

藤崎 2023年の干支は「卯」で、ウサギには元気に跳びはねるイメージがあります。そんなウサギのように、変化する世の中の流れを軽快に跳び越え、私自身、新しいものにチャレンジする1年にしたいと思っています。そのためにも、常に世の中のトレンドや新しい情報などにアンテナを張り続けていくと同時に、山積する課題にも自らチャレンジしていく気概を持ち、「自己変革」をキーワードにすることを提唱していきます。コロナの収束にもまだ時間がかかりそうですので、停滞感を乗り越えるためにも、気持ちを明るく保ちながら、いつも心の中に笑顔を持つことを心がけていきたいと思っています。会員事業所の皆さま、よろしくお願いたします。

進行 本日はありがとうございました。
※本インタビューは、2022年11月9日に行われたものです。



プロフィール
第25代会頭
ふじさき さぶろうすけ
藤崎 三郎助 氏
(株)藤崎 代表取締役会長兼社長

1949年2月13日生まれ。東京都出身。1971年慶應義塾大学法学部を卒業後、(株)伊勢丹に入社。1979年5月(株)藤崎取締役就任。代表取締役副社長、代表取締役社長を歴任し、2022年5月より現職。仙台商工会議所では、1982年4月に3号議員・常議員、1985年7月に小売商業部会副会長などを務め、1996年6月、副会頭に就任。2022年11月1日より、第25代会頭に就任。

- ◆趣味/映画鑑賞、音楽鑑賞、PC自作
- ◆座右の銘/社会の潮流ははなはだ急激にて一日の姑息偷安(こそくとうあん)を許さず
- ◆尊敬する人物/福沢諭吉
- ◆好きなスポーツ/選手/テニス、ロード・レーパー
- ◆好きな作家/デール・カーネギー
- ◆好きな俳優/ジョン・ウェイン